

えなの森林づくり基本計画



えなの森林 活かして守って次世代に
～市民の力で持続可能な地域循環型の森林づくり～

恵那市

第1章 総則

1 計画の目的

この基本計画は、恵那市にある森林が持続的利用の可能な社会資本として適切に管理され、森林の多面的機能を十分に発揮させることができるような方針を示し、森林の適切な管理と活用に貢献することを目的とします。

2 計画の理念と取組方法

恵那市にある森林は、これまで先人達が人為的に管理してきた人工林の占める割合が大きく、広葉樹林においても「里山」として長い年月にわたり活用されてきた森林であるという特徴があります。このことから、先人より受け継いだ恵みである森林資源を、より良い形で未来の世代へ繋げることが大切です。人がかかわって形成してきた森林を未来へつなぐためには、持続可能な範囲で適切に活用されることが不可欠であり、森林資源の活用と保全に多くの市民の参加が必要です。そのため計画の理念を次のように定めます。

「えなの森林 活かして守って次世代へ
～市民の力で持続可能な地域循環型の森林づくり～」

理念に伴う4つの視点で森林づくりを行います。

- (1) 未来への枠組み
- (2) えなの森林を活用する
- (3) えなの森林を守る
- (4) えなの森林を支える力

3 計画の位置付け

森林づくりに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、森林づくりの基本的な計画を定めるものです。

この基本計画は、恵那市森林整備計画並びに恵那市総合計画との整合性を保ち進めていきます。

第2章 取組内容

1 未来への枠組み

【めざす姿】

計画の理念を実現するために、計画・推進の基礎となる枠組みを定めます。

恵那市の森林全域について、木材生産林、環境保全林のゾーニングは策定済みですが、さらに観光景観林、生活環境林のゾーニングを随時行い、市民に周知をし、意見や協力を求めます。

また、PCDAサイクルにしたがって事業の効果確認を行い、必要な改善を行いながら計画を推進します。これにより、恵那市内の森林が一体的に活用・保全され、市民の力を活かしながら着実に計画が実現されていくことを目指します。

2 えなの森林を活用する

【めざす姿】

えなの森林を持続可能な形で育成するためには、林業事業者や森林所有者、又は、NPO等による保全管理が持続するように森林資源として活用され、経済的にも良好に循環することが必要です。そのため、木材を全て有効利用するため、公共施設の木造・木質化や住宅づくりで活用するとともに、薪ボイラーや薪ストーブの普及によって未利用材を活用します。

また、市有林の活用や木の駅プロジェクト等により、全ての市産材が多くの主体によって多様な形で活用されることを目指します。

3 えなの森林を守る

【めざす姿】

恵那市の森林は、人工林率が非常に高いことに加え、間伐等の森林整備が適切に行われていないことによって、災害の危険性が高まっています。

森林の現状を改善し、本来森林の重要な機能である生物多様性保全機能や地球環境保全機能、水源涵養機能といった森林の多面的な機能が発揮されるよう、「伐って、使って、植えて、育てる」というサイクルにより、二酸化炭素の吸収や災害対策など、計画的に森林環境の整備を推進します。

森林における土地境界の確定、路網の整備、間伐の実施までを、森林所有者や地域住民、林業事業者、NPO等との協働により、効果的な森林管理と施業推進につなげます。

また、獣害対策など里山の緩衝帯整備を推進し、多様で豊かな将来の森林づくりを目指します。

4 えなの森林を支える力

【めざす姿】

えなの森林づくりを支えている地域、行政、林業事業者、NPO、企業、市民が連携し合って相互の課題解決や活動を推進します、

また、地域の環境保全活動により、地域内及び下流域にわたって広く森林づくりの輪を広げます。さらに木育や教育機関と連携した森林教育、技術者養成方法の充実等、将来にわたって森林を活かし守っていくことのできる人材の育成に努め、えなの森林を持続的に活かし守り続けることを目指します。